

輝人

かがやきびと

このコーナーでは仕事やプライベートで
“輝く人”を紹介します。
第30回は、ドラッグアカカベ山之上店で
活躍する伊藤 亜紀さんを
クローズアップします！

私にとって
仕事は生きがいであり、居場所。
その場所がアカカベで
良かったです。

「絶対にアカカベで働きたい！」
面接で歌ったアカカベソング

年子の息子さん二人が幼い頃、オムツや粉ミルクを買うために、自宅の近くにあった山之上店をよく利用していたという伊藤さん。
「ベビーカーを押しながら買い物をする私に、山之上店のスタッフさんはいつも優しく声をかけてくださったり、荷物を運ぶのを手伝ってくださったり、来店するたびに温かい気持ちにさせていただいていた。次第に“私もアカカベの一員になりたい”と思う気持ちが強くなり、子供たちが小学校に入ったタイミングで、当時募集のあった桜丘店の面接を受けました。」大好きなアカカベで働くチャンスを前に、伊藤さんは驚くべき行動に出た。「どうしても受かりたいと思う気持ちが溢れて、面接の最後にアカカベソングをフルコーラスで熱唱してしまいました。店長は笑い崩れながら『もうわかったから』とおっしゃってくださって、採用の返事をいただくことができました。」

仕事は生きがいであり、居場所

長年憧れたアカカベの一員として働き始めた伊藤さん。「やらせていただける事すべてが楽しくて、夢中で仕事をしていました。当時、プライベートでバレーボールチームに所属をしていたのですが、試合中“ナイスサーブ!”と言うところで“いらっしゃいませー!”と叫んでしまっ、チームメイトはもちろん、審判、対戦相手にも爆笑されたことがあります



伊藤さんが
大切にしていること

「言葉を育てる」

いただいた言葉が自分にとって
厳しい言葉だとしても、
その言葉の真意を考え、自分の糧にする。

伊藤 亜紀
(いとう あき)

2010年4月23日入社。
入社後、桜丘店に配属。その後山之上店に異動し今年で9年を迎える。
明るく親しみやすい性格で、山之上店に欠かせないスタッフの一人として活躍中。

(笑)。」小学生のお子さん2人の子育て、そして家庭のこと。慌ただしく過ぎていく毎日の中で、仕事を持っているということが、自身の救いになっていたと伊藤さんは当時を振り返る。「家のこと、子供のこと、様々なことを抱え、時には迷いの中にいる時でも、仕事があったことで進むべき道を見失わずにいられたと思っています。仕事は私にとっての生きがいであり、自分の居場所。その場所がアカカベで良かったと心から思っています。」

自分がしてもらったことを お客様に返す

昨年からヘルスケアを担当している伊藤さん。OTC医薬品の担当になることは、登録販売者の資格を取得してから、ずっと思い続けていたことだという。「3年前に登販の資格を取得したのですが、当時は食品担当だったので、お客様から呼ばれたらお薬の売り場に行く、という感じでした。もっとお客様とお薬の話がしたい、という思いを持ち続けていたところに、昨年ヘルスケアを担当させていただけることになりました。主な

仕事はPOP制作や売り場作り。顧客の方にお送りするDMやサンキューレターは、真っ黒になるまでメッセージを書いています。」毎日が新鮮だと話す伊藤さん、お客様と接する際に大切にしていることを聞いてみた。「自分がお客さんだった時に感じた“親切にしてくれてありがとう”という思いが、今もずっと残っています。アカカベの一員となった今は、お客様に気持ちよくお買い物をしていただけるように、お客様のお困りごとが解決するように全力を尽くす、という思いで仕事に取り組んでいます。」

自分が広告塔だと思って 店頭に立つ

「お客様にお薬を勧める私自身が、元気でいきいきしていないと説得力がないと思うので、自身の体調管理や清潔感のある見た目には気を付けています。アカカベの一員になって10年、自分自身はもちろん、一緒に働く仲間にも仕事を楽しいと思ってもらえるように、経験を重ねた自分だからできることにこだわって、これからも頑張りたいです!」